

# 歯つらつ

2015年3月  
228号

発行所  
齋藤歯科診療所

由利本荘市美倉町 47-1

TEL 0120-24-4182

www.saitoshika.net

～診療時間～

曜日：月曜～土曜  
時間：午前 9:00～1:00  
午後 2:00～6:00

～休診日～

日曜・祝日  
第2・4木曜日



歯周病は、歯ぐきや歯を支える骨など、歯の周りの組織に炎症性の変化が起こる病気です。

ムシ歯と比べて、痛みが強くないことが多いですが、歯ぐきが炎症で赤く腫れたり出血しやすくなります。

進行すると歯を支える骨が少なくなってしまうので、歯がグラグラと動いてきたり歯根が出てきて、歯が抜け落ちたりするので。

歯周病の直接の原因は、口腔内のプラークと呼ばれる細

## 歯周病 症状と原因 シリーズ1

菌の集団が作り出す毒素です。プラークは、歯や歯根に付着している白または黄白色の粘性の沈着物で、多くの細菌とその産生物から構成されています。



そしてプラークはぬめぬめとしたバイオフィルムという状態で歯に存在し、薬品だけでは除去しにくくなっています。

そのため、ブラッシングで物理的にしっかりとプラークを除去することが重要になりますし、ブラッシングで除去できない歯石や歯周ポケット内のプラークを定期的に歯科医院で除去することが大切です。

その他に、歯周病の進行には歯並びや粘膜の形、適合性の悪い被せ物や詰め物が入っている等の、口の中の状態も関わります。そして喫煙や食習慣など生活習慣、病気や遺伝的要因な

どの全身状態によっても、歯周病の進行やかかり易さが左右されます。

お口の中は、全身の中でも微生物や細菌などが最も多く存在している場所の一つです。そのため近年の研究では、様々な全身疾患と歯周病の関連性が指摘されています。

歯周病との関連を挙げられている疾患には、呼吸器疾患、心疾患、糖尿病、低体重児出産等があります。

なかでも糖尿病との関連は深いといわれています。糖尿病は歯周病を悪化させる要因の一つでもあり、逆に糖尿病を悪化させ易くすることです。

歯科医院で歯周病がすすんでいると言われ、かつ糖尿病の治療を受けていない方は、一度病院で調べてもらうことをお勧めいたします。

## スポーツマウスガード

歯科で作製するスポーツマウスガードをご存じでしょうか。以前はボクシングや格闘技など限られたスポーツだけで用いられていましたが、他のスポーツでもマウスガードの効果が認められ、使用する選手が増えているようです。

マウスガードを用いる最大の目的は、歯が折れるなどの外傷の防止や、食いしばった時に歯にかかる負担を軽減することです。

脳震盪の軽減にも有効な防具といわれますが、今のところ十

分な医学的な証明はされていません。

しかし、マウスガードによって守られている安心感から、思い切ってスポーツができ、外傷を予防するだけでなく、運動能力の向上やパワーアップにも効果が期待できます。

スポーツ用品店で既製品タイプの物が販売されていますが、自分の口にぴったりのものを作るのは大変難しく、使用感も良くありません。



また、口に合っていないものを使用すると、噛み合わせが悪

くなるなどの危険を伴います。

当院では口の型や噛み合わせを取り、患者様のお口の中に入ったマウスガードを作製しております。

既製品タイプよりも口にぴったりと適合し、効果が高く装着感もとても良いです。好みの色も選ぶこともできます。

ただ、競技によっては色に制限がある場合がありますので、注意が必要です。

効果や安全性、使用感の面でも歯科医院で作製するマウスガードをお勧めします。興味のある方はスタッフにご相談下さい。

高橋

## 休診のお知らせ

日	月	火	水	木	金	土
1 休診	2	3	4	5	6	7
8 休診	9	10	11	12 休診	13	14
15 休診	16	17	18	19	20	21 休診
22 休診	23	24	25	26 休診	27	28
29 休診	30	31	3月			

## 講演会に参加して

2月7日に、本荘グラウンドホテルにて由利本荘歯科医師会の学術講演会が開催され、職員一同で参加させていただきました。

講師は、山形県酒田市の日本海総合病院歯科口腔外科部長である柴田肇先生で、演題は「薬剤関連顎骨壊死の診断と治療および予防について」というものでした。



の観血的歯科治療に対しての警鐘を鳴らす論文が発表され、「ビスフォスフォネート系薬剤関連顎骨壊死（以下BRONJ）」といわれるようになりまし。

現時点では正確なBRONJの発症メカニズムは不明ですが、徐々に解明されつつあり、対応策も確立されてきているということでした。

なお、BRONJの診断基準として、左記の3つがあります。

1. 骨の露出の8週間以上の継続。
2. 頭頸部への放射線治療の既往が無いこと。
3. BP製剤の治療の経験があること。

BPを服用されている方への歯科治療、特に観血的処置は、随分制約を受けてしまいます。

しかし、骨折による寝たきり状態の回避や、がんの骨への転移を抑制するといった、非常に優れた作用をもつ薬剤でもあります。

今回の講演会で学んだことを基にして、BRONJを発症させないよう気をつけていきたいと思ひます。

患者様の中で骨粗鬆症の治療をしており、フォサマック、ボナロン、アクトネル、ベネットなどの薬が処方されている、ゾメタなどの注射を打っているという方がおりましたら、スタッフにお声かけ頂るか、お薬手帳の提示をお願い致します。

院長